あしのぼうけん
あとし、そらをとぶ
さく・え　きむら りさ

あしのぼうけん

あと し、そらをとぶ

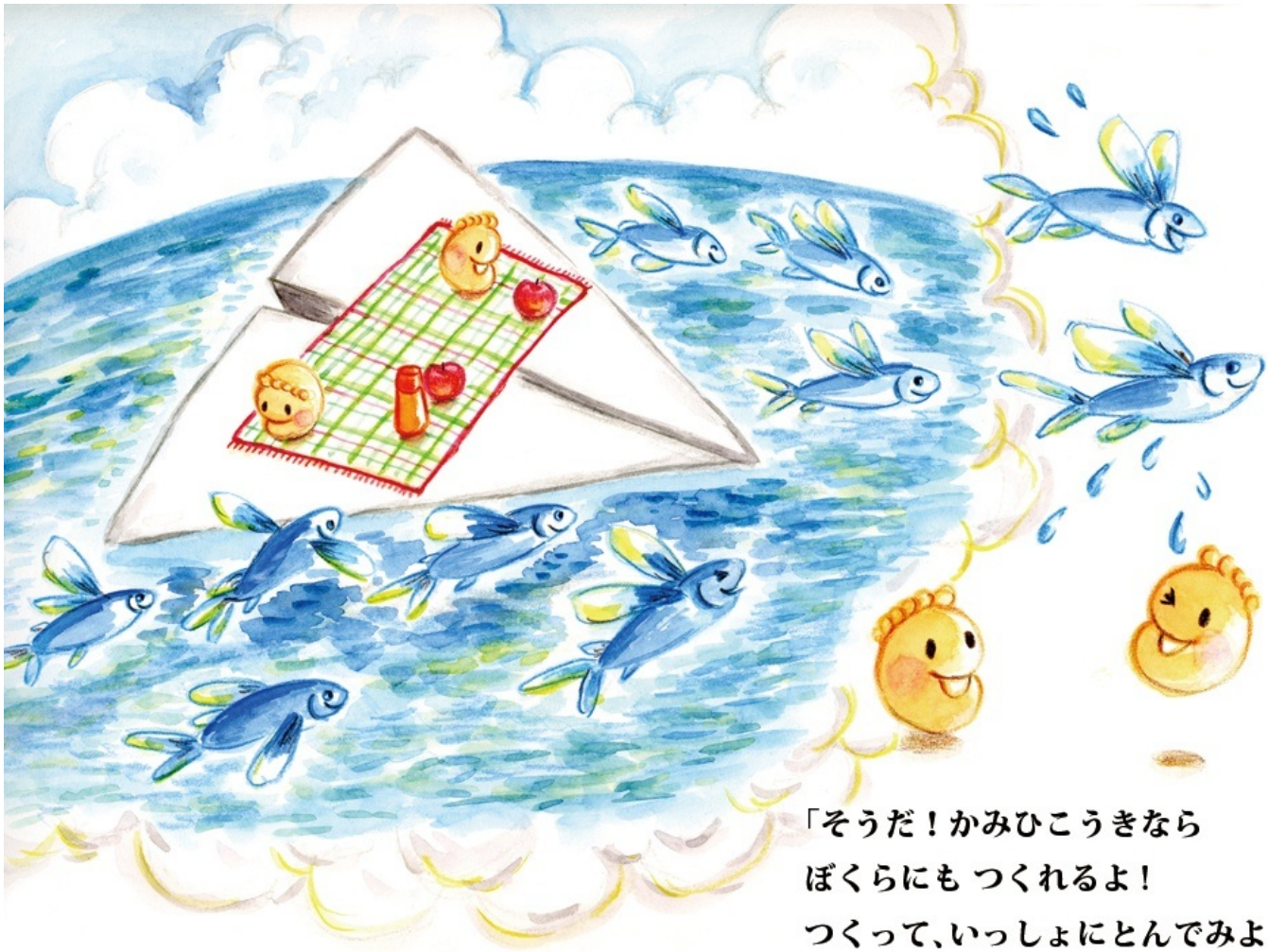
さく・え　きむら りさ

「あ」と「し」は、ちいさな
あしの きょうだい。
まいあさとどく しんぶんを、
とっても たのしみに しています。

けさも、ふたりは わくわくしながら
しんぶんを ひろげました。

するとそこには、はつめいかの
へびさんが、じさくのひこうきで
そらをとんだ というきじが
のっていました。

「へびさんは、すごいなぁ。
ぼくもいちど、ひこうきでそらを
とんでみたいな。」
と、あ が いいました。



「そうだ！かみひこうきなら
ぼくらにも つくれるよ！
つくって、いっしょにとんでみよう。」

あ と、し は、さっそく
かみひこうきづくりに ひつような
どうぐを、いえじゅうから
かきあつめました。

「でも、ふたりがのってとべるような
ひこうきをつくるほどの
おおきなかみがないね？」
と し が、しんぱいそうにいうと、
「そうだ！このしんぶんしを つかおうよ！」
と、うれしそうに あ がさけびました。

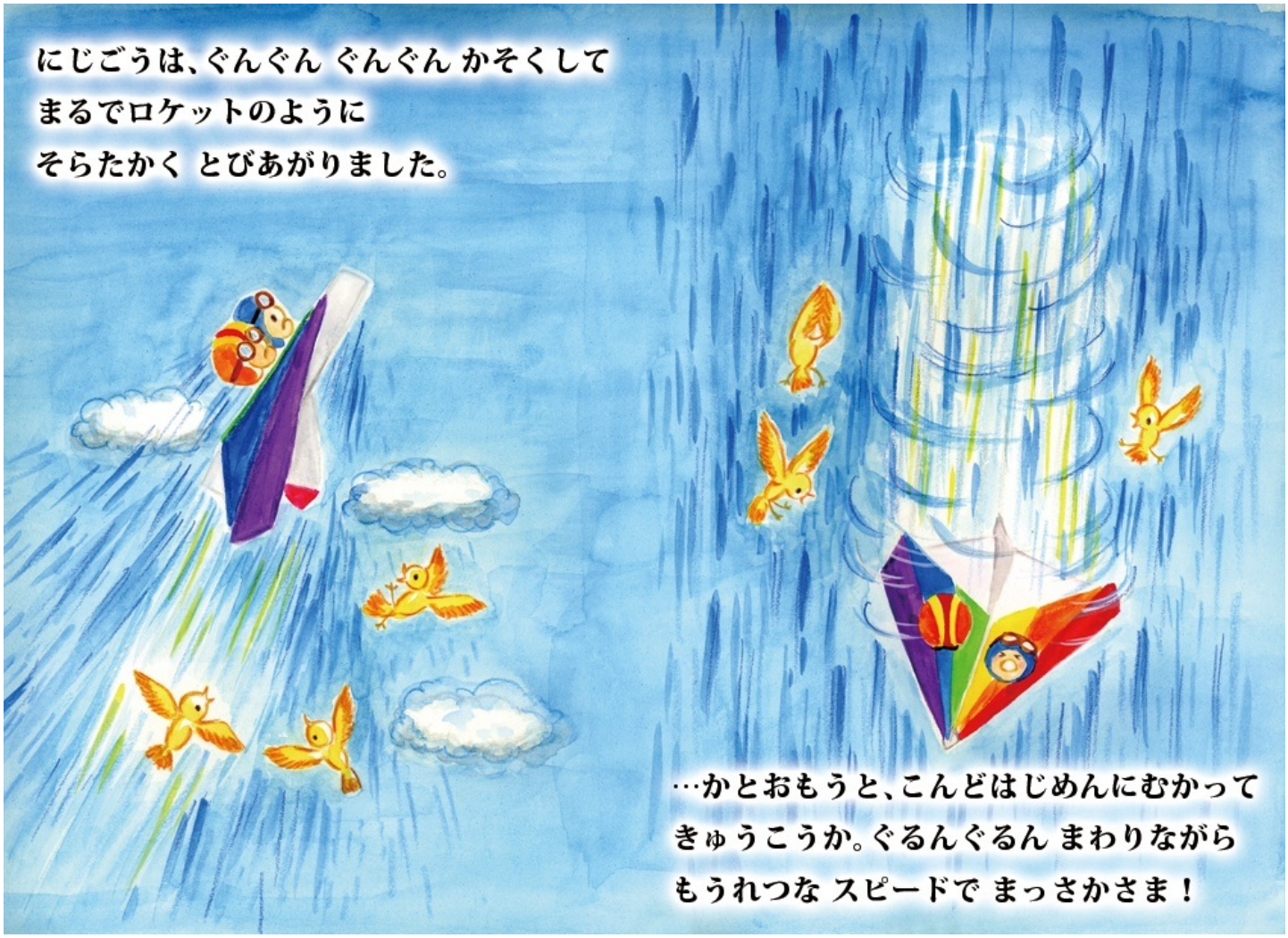
しんぶんしを はりあわせて
おおきな いちまいのかみにしたら…

…さて、なにいろにしようかな？

カラフルな にじいろにぬられた
かみひこうきが、ついにかんせいしました。

「できた！ぼくらのかみひこうき！」
「なまえは『にじごう』にしよう！」
あ と、し は、おおよろこびです。

あ と し は、あこがれのへびさんと
おそろいのヘルメットをかぶり、
やねのうえから さっそうとそらへ
とびたちました。


にじごうは、ぐんぐん ぐんぐん かそくして
まるでロケットのように
そらたかく とびあがりました。
…かとおもうと、こんどはじめんにむかって
きゅうこうか。ぐるんぐるん まわりながら
もうれつな スピードで まっさかさま！

にじごうの おちたさきは、
なんと あと しの おうちのうえ。
やねの てっぺんに　ざっくりと
つきささってしまいました。
わぁん
めが
まわっちゃった

「まだまだ、あきらめないぞ。
もういちど、とんでみよう。」
と、あ がげんきにいいました。
ところが、こんどはつばめのように
きゅうせんかい。

ぐるんぐるん
かいてんしながら、
さきにすすむことなく、
けっきょくは
ついらくしてしまいます。
なんどもちょうせん
するうちに、とうとう、
ひがくれてしまいました。

あ は、かんかんです。
「もう、こんなわがままなひこうきなんて
しらないや！ぼく、もうかえる。」
そういって、あ は、だいじな
ヘルメットをにじごうに
たたきつけ、さっさとおうちに
かえってしまいました。

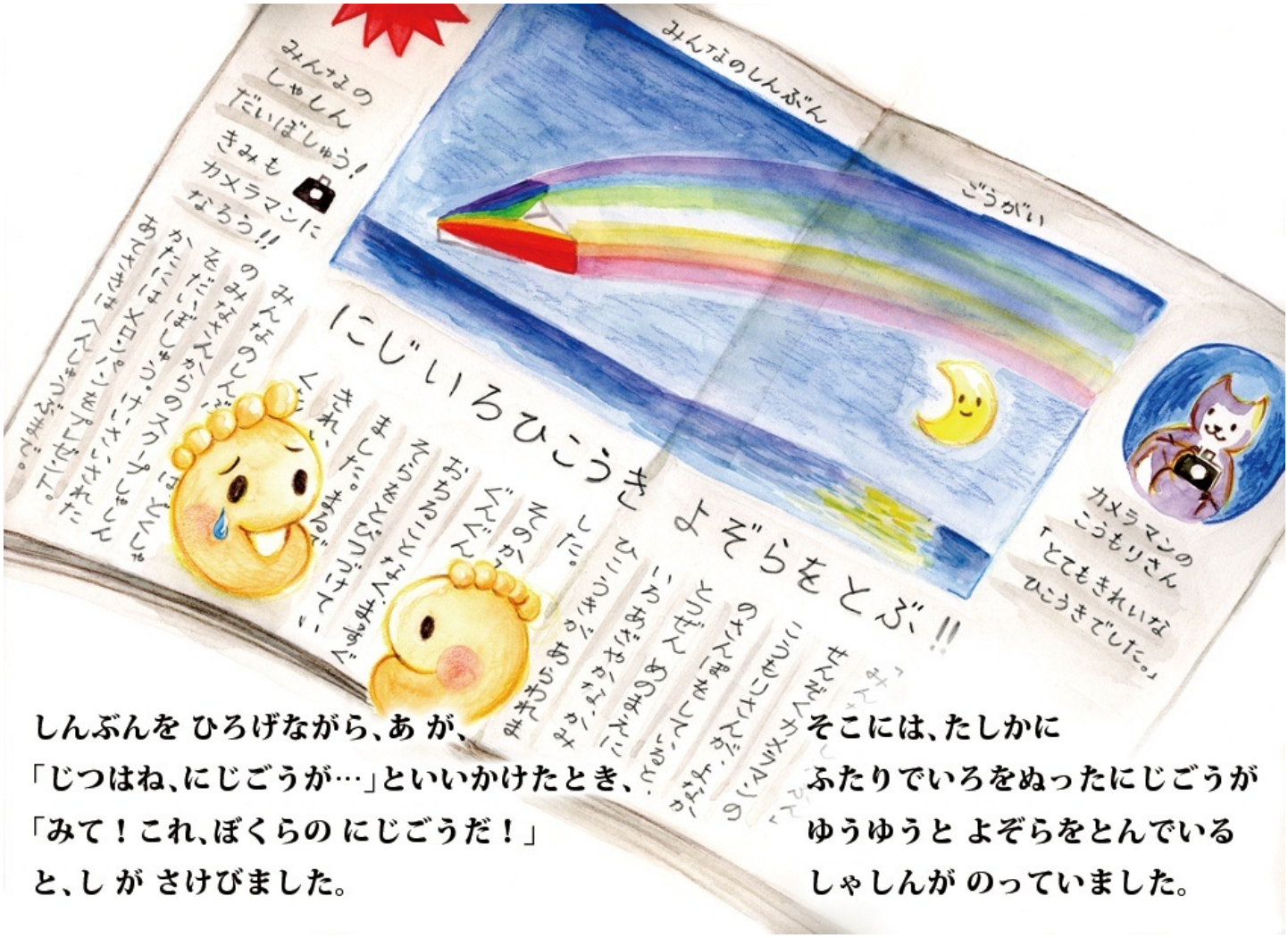
おふとんにはいっても、
あは、まだおこっていました。
「ぼく、きょう なんど
あたまをぶつけたかわかる？
とってもいたかったんだ。」

「ぼくだってそうさ。
でも、あした もういちど
がんばってみようよ。
もしかしたら、あしたこそは
とぶかもしれないよ。
あきらめないで。」
し に、そういわれて
あ は、ほんのすこし
きもちがおちつきました。

つぎのひの あさ、
あ は、しんぶんをとりにいった ついでに
にじごうの ようすをみに
やねに のぼりました。

しかし、そこは
もぬけのから。
あたりを みまわしても、
にじいろの うつくしい
かみひこうきは、
みあたりませんでした。

あは、しょんぼりです。
「きのう、ぼくが
ひどいことをいったから、
きっとおこって
にげちゃったんだ。」



しんぶんを ひろげながら、あ が、
「じつはね、にじごうが…」といいかけたとき、
「みて！これ、ぼくらの にじごうだ！」
と、し が さけびました。

そこには、たしかに
ふたりでいろをぬったにじごうが
ゆうゆうと よぞらをとんでいる
しゃしんが のっていました。

きょうも、あ と しは、そらをみあげます。
にじがでているひは、そのさきに
にじごうが いるからです。

「にじごうは、きっと ひとりでじゆうに
そらを とびたかったんだね。
あんなに、たのしそう。」し が、いいました。
あ も、ほこらしいような、さみしいような、
ふくざつなきもちで、うなずきました。
そしてふたりは、いつまでも
にじごうのすがたを ながめていました。

あしのぼうけん　あとし、そらをとぶ

作・絵　木村 リサ（PLACE HITTER）
URL　http://www.asinobouken.com

© PLACE HITTER